



会報

点	鐘	鈴木秀一 会長	
合	唱	国歌、奉仕の理想、	
		四つのテスト	
出	席	出席義務会員	60人
席	報	免除会員	11人
		出席	39人
		出席率	79.6%

会長挨拶



皆様、こんにちは。

本日、卓話をお願いしております、中村 雄一様ようこそお越し下さいました。ホームページでプロジェクトの活動や中村様のプロフィールを拝見し、本日の卓話をとても楽しみにしておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

そして、桜の季節は出会いと別れの季節でもございます。本日は、田中尚志(なおゆき)会員の後任、江座(えざ)康弘 様、柏ロータリーへようこそ、これからよろしくお願いいたします。

また、長谷川会員の奥様のご葬儀でお手伝い頂きました皆様、ご参列の皆様も大変ありがとうございました。日曜日にはグリーンロケットの試合観戦に岡本会員のご家族と張さんに参加していただきありがとうございました。

また、3月24日には我孫子ロータリークラブの60周年式典に、張ヶ谷幹事と一緒に行って参りました。来賓で国際ロータリー公共イメージコーディネーターのお役職で寺嶋フェローもいらっしゃっておりました。姉妹クラブで台湾から豊原ロータリークラブとハワイのアラモアナロータリークラブの方々がいらっしゃって昼間は成田山観光されて、夜にハート柏で記念式典がありました。アットホームで良い式典でした。

クラブ報告

I 幹事報告

1. ガバナー月信4月号
2. コーディネーターNEWS 2026年4月号
3. 財団室NEWS 2026年4月号
4. RLI(ロータリーリーダーシップ研究会) 第1回ブラッシュアップセミナー開催のご案内
5. 米山梅吉記念館 館報
6. その他



張ヶ谷政喜幹事



久保田寛伸副SAA



四つのテスト 泉水宏之F



藤原良行親睦委員長



卓話紹介者 岡本祐彦F

II 委員会報告・理事会報告

1. 藤原良行親睦委員長
4月8日 日帰り旅行と再来週の夜間移動例会
よろしくお願いいたします。

III PR・ご案内

なし



<本日のお食事>



中島卓朗親睦委員

勝田秀一親睦委員

—トレーサビリティが変える社会貢献と、柏から始まる世界課題解決—

私たちは今、「支援」とは何か、「社会貢献」とは何かを、改めて問い直す時代に生きています。

戦争、貧困、教育格差、環境破壊、難民問題——ニュースを通して世界の課題に触れる機会は増えました。しかし、その一方で、多くの人がこうした問題を「遠い国の出来事」として受け止めてしまいがちです。心は動く。何かしたいとも思う。けれど、自分に何ができるのか分からない。寄付をしても、その先が見えない。物資を送っても、誰に届き、どう役立つのか分からない。情報として入ってくるのは政治指導者や大きな国際情勢ばかりで、そこで日々を生きる普通の人々の声や暮らしはなかなか見えてきません。こうした「見えない支援」の構造が、善意ある多くの人の行動を難しくしてきました。

これまでの社会貢献は、決して無意味だったわけではありません。むしろ、善意と責任感によって支えられてきた尊い営みです。しかし、これからの時代に求められるのは、その善意をより確かな信頼と持続性につなげる仕組みです。その鍵となるのが、トレーサビリティという考え方です。もともとは物流や製造の分野で使われる言葉ですが、社会貢献におけるトレーサビリティとは、単に「物の流れが追える」ということではありません。誰の思いが、どこに、どのように届き、現地でどう活用され、どんな変化を生み、それがどのように支援者へ返ってくるのか——つまり、支援の過程と成果が見えることです。

なかよし学園が取り組んでいるのは、まさにこの「見える支援」の仕組みづくりです。私たちは、物資や教材を届けて終わる支援は行いません。日本で集まった教材や地域の取り組みが、現地でどのように使われ、どんな学びや変化につながったのかを丁寧に受け取り、再び日本へと返していきます。そこには、単なる報告ではない、関係の循環があります。支援した側が「役に立てたらしい」で終わるのではなく、「この行動が、この子どもの学びにつながった」「この地域の取り組みが、遠い国の未来を支えた」と実感できる。支援される側も、ただ受け取る存在ではなく、自らの声や反応を通して関係を返していく。この双方向性が、支援を一過性の善意から、持続可能な社会的関係へと変えていきます。そして、なかよし学園の特徴は、国際支援だけにとどまらない点にあります。私たちは、地方創生や離島創生の現場にも深く関わり、地域の活動をグローバルレベルに引き上げるプラットフォームをつくってきました。たとえば壱岐市では、地域の食材や未利用資源を活用したふりかけづくりを通して、地域経済と国際支援をつなげる取り組みを進めています。対馬市では、海洋プラスチックという地域課題を、環境教育や平和学習、世界への発信へと結びつけてきました。こうした実践が示しているのは、地域の課題と世界の課題は別々ではないということです。地域で生まれた工夫や挑戦は、世界の課題解決に接続できる。逆に、世界の課題に向き合うことが、地域の価値を再発見し、地域の誇りを育てることにもつながるのです。

この視点に立つと、柏という地域にも大きな可能性が見えてきます。柏には、人があります。企業があります。学校があります。市民活動があります。地域を良くしたいと考える人々のネットワークがあります。これらは、決して柏の内側だけで完結する力ではありません。地域の教育、環境、福祉、ものづくり、食、コミュニティづくりといった実践は、世界とつながる入口になり得ます。戦争や貧困という、自分から遠く離れた問題のように感じるかもしれませんが、しかし本当は、その解決の入口は、いつも自分たちの足元にあります。柏の子どもたちがつくる教材が世界の学びにつながるかもしれない。柏の企業の技術や商品が、途上国の暮らしを支えるかもしれない。柏のロータリークラブが持つ信頼とネットワークが、日本と世界を結ぶ新しい協働を生み出すかもしれない。そう考えたとき、世界課題は「遠いニュース」ではなく、「柏から関われる現実」に変わります。

これからの社会貢献に必要なのは、寄付をすることそのものだけではありません。寄付や支援を、当事者として参加する入り口に変えていくことです。誰かを助けるために外から関わるのではなく、自分たちの地域の力や資源を活かしながら、共に課題解決を担う側に立つ。その仕組みがあれば、人は単なる支援者ではなく、未来の共創者になれます。なかよし学園は、そのための場を実際の現場で育ててきました。地域資源を世界へつなぎ、世界の声を地域へ返し、子どもたちや市民、企業や学校がともに学び、関わり、変わっていく。そこには、社会貢献を「誰かのための行為」で終わらせず、「自分たちの社会をつくる行為」へと変える力があります。

本卓話では、世界の現場で見えてきた支援の限界と可能性、そしてトレーサビリティが社会貢献をどう変えるのかについて、具体的な実践をもとにお話します。そのうえで、なかよし学園が地方創生・離島創生の現場で培ってきた仕組みを手がかりに、柏という地域からどのように世界課題解決へ参加できるのかを、皆さまと一緒に考えたいと思います。戦争や貧困を、ただニュースで耳にするだけで終わらせない。地域の力を世界へつなぎ、世界の課題を自分ごととして引き受ける。その新しい社会貢献の形を、柏から始める未来を描く時間になりたいと考えています。



本日のゲスト



特別非営利活動法人なかよし学園プロジェクト
事務局長 中村里英様 代表 中村雄一様



帝国データバンク 柏支店 支店長
江座 康弘様

Happy Birthday



畔高弘樹F 中島卓朗F 寺嶋一祐F 結城綾子F

お知らせ



仲村眞一F

柏支店から千葉支店に異動されることになりました。お世話になりました。



元木覚F

株式会社柏市民新聞社 現代表 永尾鎮機が退き、元木覚Fが代表取締役役に就任されました。

卓話日程

日付	開催番号	例会種別	卓話内容
4月8日	3096	移動例会・親睦旅行 (日帰り)	
4月15日	3097	夜間移動例会・親睦例会	
4月22日		休会	
4月29日		休会	
5月6日		休会	



鈴木秀一会長(長男が大学を卒業。今日から社会人1年目になりました。)、藤川崇F(息子が大学生になりました。本日、入学式です。)、中嶋卓朗F(誕生日お祝いありがとうございます。長男が松丸フェロー事務所にお世話になります。)、結城綾子F(今月で誕生日をむかえます。今後も頑張ります。)、畔高弘樹F(57歳になりました。来期幹事です。不手際多いと思いますがお願いします。)、寺嶋一祐F(52歳になりました、エネルギーギッシュに活動して参ります!)、仲村眞一F(転勤となります。大変お世話になりました。)、元木覚F(柏市民新聞社の代表取締役役に就任いたしました。今後お願いいたします。)、松丸隆一F(確定申告が終わりました!ニコニコしています!)

例会日:水曜日 12:30~13:30

例会場:ザ・クレストホテル柏

柏市末広町14-1
TEL 04-7146-1111(代)



<会報担当> 委員長 板津 守

委員 藤川 崇 仲村 眞一 西村 英樹

大田 英紀 元木 覚

日野 謙一 村田 慶治